

【今回のテーマ】

『私が見つけたSDGs』の宿題の中で、たくさん発見や取り組み、自分にできることのアイディアがありました。未来新聞にて紹介します Part 2。自分事として捉え、何をすればSDGsにつながるのかを考えましょう。

関連するSDGsの目標



食品ロスについて

3年2組

「ZEROCO」が日本の食産業の発展を支える基盤づくりをするために、温度約1℃未満湿度100%の保管環境を実現することで、食材や食品の鮮度を長期間高品質に保つことと世界で初めて可能にしました。長期間保存することにより、商品寿命が延びたことで結果、フードロス削減に貢献します。ミッションとして「未来の食とZEROからつくる」が掲げられ、その内容としては1.素材開発、2.流通革命(DX、オートメーション、鮮度など)、3.新しいプラットフォーム(ド2Cや新しいFC)が挙げられました。ミッションとして「世界中のおいしいと健康に貢献できる」が挙げられました。

保存例	
果物	鮮魚
イチゴ	うなぎ
桃	うなぎ
メロン	うなぎ
バナナ	うなぎ

一般的な果物 35℃ 凍結時中心部と表面の温度差が数℃発生

ZEROCO 0℃ 準備段階で0℃に冷却

一般的な果物 35℃ 凍結時中心部と表面の温度差が数℃発生

ZEROCO 0℃ 準備段階で0℃に冷却

一般的な果物 35℃ 凍結時中心部と表面の温度差が数℃発生

ZEROCO 0℃ 準備段階で0℃に冷却

一般的な果物 35℃ 凍結時中心部と表面の温度差が数℃発生

ZEROCO 0℃ 準備段階で0℃に冷却

一般的な果物 35℃ 凍結時中心部と表面の温度差が数℃発生

ZEROCO 0℃ 準備段階で0℃に冷却



冷蔵庫、冷凍庫に次ぐ第3の鮮度保持ソリューション

ZEROCO 代表取締役社長の楠本修二郎氏は、「現状、ZEROCOが対応できない食品は見つかっておらず、これまでの冷却技術では、おいしさを保てなかった卵焼きやショートケーキ、ステーキの冷凍保存にも使える」と話す。

保存期間：2023年2月16日～4月11日



「ZEROCO」で保存したイチゴ(左)と冷蔵庫で保存したイチゴ(右)、冷蔵庫で保存したイチゴではカビが発生

ジェンダー平等について

3年1組

SDGsの目標5では、「ジェンダー平等の達成と全ての女性が能力を發揮できる社会の実現」が目標となっています。ジェンダーとは、性別によって定められた社会的属性や相互関係のことです。つまりジェンダー差別は、性別を主理由に不平等や差別が起こらないことです。しかし、現在でも性暴力や虐待、教育格差などといった女性差別の問題が残っています。ジェンダー平等に向けて、世界ではどのような取り組みが行われているのでしょうか。

日本では、女性が働きやすい職場づくりを目指し、さまざまな取り組みを企業や政府が実施されています。株式会社マツトキヨシホールディングスはあらゆるハラスメントを防止するため、「従業員への研修」

「相談窓口の設置を行っています。他にも朝日新聞社では無意識の偏見をなくすため2016年に「女性プロジェクト」を立ち上げ、ジェンダー平等に関する報道を集中的に行っているそうです。海外では男女に限らず、LGBTQ+のハンディキャップを持つ人などに対するジェンダー平等に向け、色んな取り組みが行われています。アメリカの航空会社では同性のパートナーも「西の偶者」メンバーシップが購入できる制度を導入するなど、LGBTQ+を尊重した福利厚生を取り入れています。このように、世界はジェンダー平等実現のため、さまざまな取り組みが行われています。

今回ジェンダー平等について調べ、さまざまな問題があることを知りました。目標実現に向け、まずは差別意識や偏見を一人一人なくしていくことが大切だと、私は思います。

ジェンダー平等を実現しよう

日本のジェンダーギャップ指数

総合	116位	指数は悪化。東アジア・太平洋地域で最下位
政治	139位	指数は前年と同じで改善は見られず。閣僚、国会議員割合も低水準
経済	121位	管理職割合や労働者に占める割合が低迷
教育	1位	格差がある高等教育(日本での大学)の就学率が反映されず
健康	63位	指数は前年と同じ

(2022年、世界経済フォーラム発表)

ジェンダーギャップ指数

2022年7月に報じられたジェンダーギャップ指数(男女格差を示す値)において、日本は世界146カ国中116位でした。主要7カ国(G7)の最下位であるばかりでなく、世界的に見てもジェンダー後進国と認めざるを得ない状況です。

ジェンダーもによる男女差別をなくし、ひとりひとりの能力や個性が活かされる世の中をつかっていくことが、世界共通の目標になります。